

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

公益財団法人 宮崎県芸術文化協会

所在地	宮崎県宮崎市宮田町3番45号	設立年	1974年
運営主体	公益財団法人 宮崎県芸術文化協会		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県内市町村へのヒアリング・・・26件 ・事業形成と評価のための審議会の形成と協議の開催・・・3回 ・リーディングプロジェクトの開催・・・3回 		
きっかけ	<p>学校における部活動は、文化振興所管課(みやざき文化振興課)だけでなく、高等学校においては教育委員会、中学校においては基礎的自治体の教育委員会と連携する必要があり、多様なステークホルダーが存在し、文化芸術関係者だけで実現することはできない。教員は多忙な環境にあり、学校現場に急な変化を求めることは非常に難しい。そのため、中長期的な視点を持って、「地域文化倶楽部」(仮称)をモデル(リーディングプロジェクト)として取り組み、徐々に理解と参画を広げていく必要がある。</p>		
団体・組織等の連携	<p>教育機関、地域、その他組織等の連携について(事業計画書に記載したイメージ図等)</p>		
活動場所	宮崎県内		
活動概要	<p>宮崎県内において短歌を始めとする文芸活動は「牧水短歌甲子園」をはじめとして以前より盛んである。ただ若年層の流出や、成人後の文芸活動については高齢化の一途をたどり、若年層の加入は喫緊の課題である。また、県内の市町村の中には、文化庁を設置していない公立学校も多く存在している。「日本一の短歌県」を掲げる宮崎県としては、若年層における文化活動の振興と、文化活動を通じての地域アイデンティティの形成を狙っていきたい。今年度の地域文化倶楽部創設支援事業では、短歌を中心とする文芸活動の可能性を検討し、設立に向けた実験事業を通じ、今後の事業展開の指針を議論した。</p> <p>事業内容1 若年層の部活動としての文芸活動に関するリサーチ 宮崎県内の市町村に対し文化部活動の状況のヒアリングを実施。その中で、地域文化倶楽部創設に向けたリーディングプロジェクトの対象地域を選出。また、宮崎県内の関係者を委員として、「地域文化倶楽部創出に向けた懇談会」を開き、地域文化倶楽部の創出に向けた議論を行った。</p> <p>事業内容2 地域の若年層と部活動を対象にした地域部活動の試験的实施 本県における「地域文化倶楽部(仮称)」のリーディングプロジェクトとして短歌の部活動の試行実験を計4回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディングプロジェクト01 2月16日3月3日講師:小島なお ・リーディングプロジェクト03 3月4日3月5日講師:スキンヘッドカメラ岡本 		

○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

1. 宮崎県内の短歌文化のリサーチ

宮崎県内は南北に広い県域であり、短歌文化に対する取り組みが盛んなのは、県北、県央地区である。県南地区では短歌の取り組みは比較的少ない。特に若山牧水の生誕地である日向市は「牧水・短歌甲子園」の開催や、「ひゅー短歌、ひゅー日向」等の冊子が市内に配布されるなど、市が主催する短歌を用いた文化事業が他の市町村より多く見られる。また日向市内にある日向高校は「牧水・短歌甲子園」での出場も多く、強豪校として知られている。他に「牧水・短歌甲子園」に出場する強豪校としては、宮崎市内にある、宮崎西高校、宮崎商業高校が挙げられる。また両校は部活動を合同で行うなど、交流が深いことがわかった。

一方で、宮崎県内には文化部活動が存在しない市町村が存在することがわかった。市町村内の中学、高校に文化部がないということは、10代に文化に携わる機会がないということであり、今回の事業において取り組みが必要であると思われる。特に美郷町では、若山牧水の親友である歌人、小野葉桜に関する取り組みを行っている。ただ、少子化の影響もあり、若年層への興味関心を得られる取り組みに苦心していることがわかった。

2. 審議会での議論

審議会の開催前より、委員となる方へのヒアリングを行った。地域文化倶楽部創設に向けた取り組みについては高い関心を得られた。その中で出た意見としては、「短歌文化の質の向上より、裾野を広げる取り組みが必要」「部活動などで短歌を詠んでた学生が、結局県外に出てしまい、県内全体の短歌人口の高齢化と減少は避けられない」「宮崎県から出た若い歌人は多く、彼らが指導者となって若年層への短歌文化の振興を担ってもらうのはどうか」等が挙げられた。審議会での議論では、講師として宮崎にゆかりのある歌人、小島なおさんを推す声が上がった。小島なおさんの母である歌人、小島ゆかりさんが、宮崎県が主催する「牧水賞」の受賞者であること、小島なおさんご自身が、高校在学中に角川短歌賞の新人賞を受賞されていることから、宮崎の高校生の講師として招き、高校生が小島なおさんの話を聞き、一緒に取り組むことを経験してもらうことで、今後の活動の振興につながるという意見をいただいた。また、美郷町に文化部がない中での若年層への短歌活動への参加推進は急務であり、今後地域文化倶楽部の創設にあたっては、重点的に取り組むべきという意見をいただいた。

3. リーディングプロジェクトの実施

以上の理由から小島なおさんをゲストに招き、宮崎県内の高校の文芸部・短歌部に対する講座を開催した。普段の部活動や授業などではあまり紹介されない歌を取り上げ、表現の面白さや、創作にあたって大事なことを伝える講座となった。学生との対話形式で実施した結果、学生、顧問、そして講師の小島なおさんにとって、相互に刺激を与え合う機会となった。また、美郷町では、歌人芸人スキンヘッドカメラ岡本さんを招き、小野葉桜が詠んでいた苦悩や悔しさをテーマにした歌を現代的に解釈する機会として、講座を開催する予定であったが、まん延防止期間が終わったあとも、県外からのゲストを招くことが難しい状況になったため、動画収録型のオンライン開催を実施した。

○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

- ・参加する学生に対して、押し付ける形にはせず、対話型で実施する。
- ・短歌の特性上、創作に対する指導を行わず、自由な批評と解釈に重点を置いた。
- ・当初は対象校を限定しての実験的な取り組みの実施を予定していたが、美郷町で開催する講座が新型コロナウイルスの影響を受けて開催ができなくなったため、オンラインで広く県内の学生に届く形で実施した。

○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

- ・中間支援組織が主催するという特性を活かし、県内市町村へのヒアリングを実施した。その結果、申請時点で推定していた課題から、各地域が抱えている課題に対する取り組みという内容に変更できた。
- ・宮崎県内で活動する歌人や大学教授、部活顧問による審議会を結成したことで、事業実施にあたっての指導や、事業後の評価、検証を外部の方に依頼することができた。
- ・外部講師の招聘にあたっては、学生と比較的近い年代の方で、かつ第一線で活動されている方を選出した。その結果、雑談用な形での交流機会の提供となり、先生と生徒という関係ではなく、対等かつ仲間のような形での対話と表現に対する相互理解が生まれた。

○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

地域文化倶楽部の創設にあたっては、美術、音楽、演劇といったジャンルが固定されることが問題であると思われる。今回の採択を受けて、短歌を中心とした文芸部への働きかけを行っていく中で、他のジャンルの文化部活動はできないのかという声が聞かれた。申請母体が学校や、部活の連合、または芸術活動を行う団体等を想定されているためであると思うが、私共のような中間支援組織が主体となることができるように、多ジャンルへの支援ができる仕組みがほしい。

また、令和4年度の地域文化倶楽部創設事業のカテゴリから、文芸がなくなったことは少なからず衝撃であった。そのため申請を諦めざるを得なかったが、一方で来年度以降も審議会を継続し、補助金に頼ることなく、今回の事業成果を継続するための議論を行うことができた。ただ、令和5年度以降も地域文化倶楽部創設事業が実施されるのであれば、活動種目に文芸を復活していただきたい。宮崎県は日本一の短歌県を掲げるほど短歌文化が盛んであり、また部活動だけではなく、全世代を通じて文芸活動が盛んに行われている。これは大切な地域資源の一つである。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

リーディングプロジェクト開催後に令和4年度以降の開催について、議論を行った結果

- ・外部講師による指導によって、顧問が指導する上での偏りを超えた文化芸術活動が可能である
- ・今回のように他校との合同での講座によって、普段少ない相互交流が生まれる
- ・部活動OB/OGの傘下の可能性が見いだせたことから、中間支援団体が主催による、OB/OGによる講座開催ができる

以上の点が挙げられた。来年度以降は、これらの事業を開催し、OB/OGを招いたオンラインによる複数校合同の講座を定期的で開催していく予定である。これによって

- ・文芸活動に造詣のない先生や顧問であっても部活動の指導、ならびに質の向上が図れる
- ・講師と、運営と、審議会、学校といった複数のステークホルダーによる議論により、県内全域での文化部活動の盛り上がりの形成が図れる
- ・指導や部活動の運営にかかる顧問の負担を、私共のような中間支援団体が担い、教員に対する働き方改革の推進を行う

以上のような効果が期待できる。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『地域移行(展開)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

参加者 (予定人数)	リーディングプロジェクト01・・・対象学年:高校1年～3年 人数:8名 リーディングプロジェクト02・・・対象学年:高校1年～3年 人数50名
募集方法	宮崎県高文連加盟文芸部に対して、顧問からの告知
指導者	教員2名 外部ゲスト2名
移動手段	特になし（学校内での開催とオンライン開催）
活動費用	なし
スケジュール	6月～12月・・・県内市町村ヒアリング 11月～3月・・・審議会の開催 2月16日 3月3日 リーディングプロジェクト01 講師:小島なお 3月4日 3月5日 リーディングプロジェクト03 講師:スキンヘッドカメラ岡本
保険加入等	特になし



